

小田原市の 重層的支援体制整備事業

“つなぐ つながり”

1 自治体概要 (令和5年4月現在)

人口 186,080 人 (減少傾向)

世帯数 84,097 世帯 (増加傾向)

高齢化率 約 30 % (上昇傾向)

面積 113.6 km²

小田原市の西部は箱根連山につながる山地、東部は曾我丘陵と呼ばれる丘陵地帯で、市の中央には酒匂川が南北に流れて足柄平野を形成し、南部は相模湾に面しています。

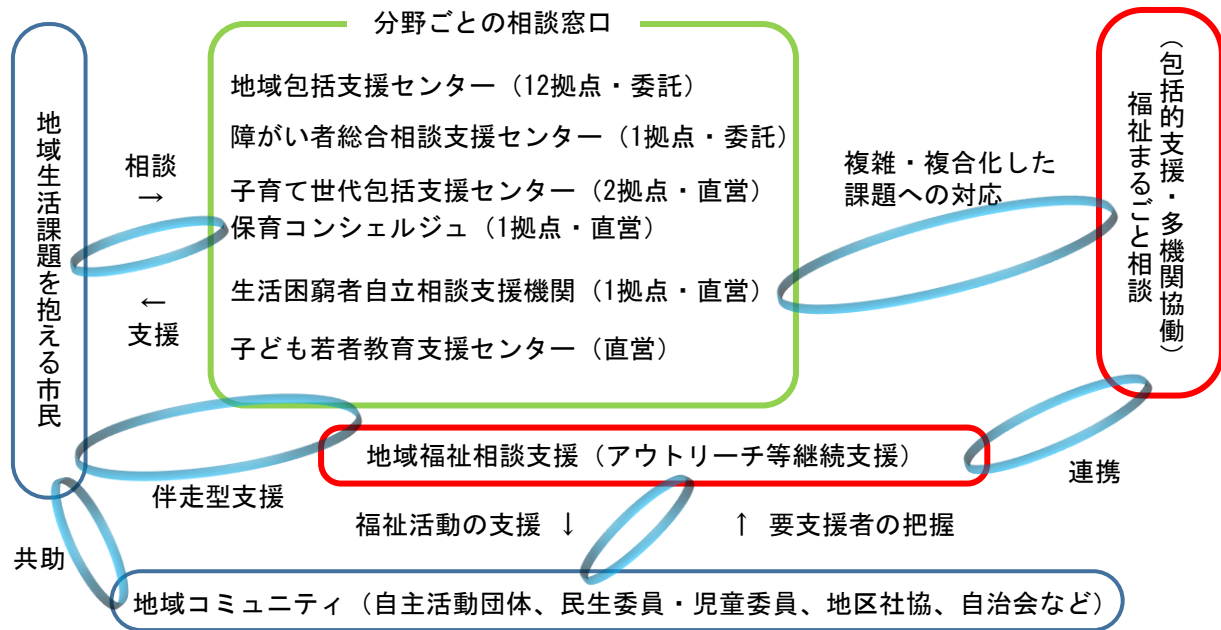
2 取組に至る背景や理念

小田原市では、社会情勢の大きな変化に伴い地域福祉の課題が複雑化・多様化していることを背景に平成22年3月に「ケアタウン構想」を策定し、①地域福祉の担い手が育つ環境づくり、②保健福祉関係者のネットワークの構築、③地域の既存施設の活用、④誰もが気軽に参加でき、交流できる場づくりを重点検討事項に掲げ施策を推進してきました。また、平成29年度からは「ケアタウン構想」の延長線として、重層事業のモデル事業に取り組み、「福祉まるごと相談窓口」の設置などを進めてきました。

令和5年度から実施する重層事業においては、地域生活課題を抱える方や世帯を地域社会や専門的な支援に「つなぐ」ために各支援機関が専門分野の枠を少しずつ広げて重なり合う「つながり」を持った支援体制を構築していくことを基本理念として、個別事業の取組を進めていくこととしています。

3 主な取組事項

■相談支援に関する体制・取組



※ 包括的な相談支援は「基本型」の類型で実施

※ 「多機関協働事業」及び「アウトリーチ等継続支援事業」は市社会福祉協議会へ委託して実施

■参加支援に関する取組

参加支援事業は、高齢者、障がい者、生活困窮者等の各福祉制度で実施されている既存の社会参加に向けた支援では対応が難しい方を支援対象にしており、多機関協働事業及びアウトリーチ等継続支援との綿密な連携が必須であるため、本事業も市社会福祉協議会へ委託して効率的・効果的に実施します。

■地域づくり支援に関する考え方

既存の地域づくりに関する事業を継続しながら、地区自治会を単位に、各地区の特性や自主性を尊重しつつ、世代や属性を限定しない居場所や交流の場が創意工夫により生まれるよう、福祉分野以外の施策との橋渡しなど、その仕組みづくりを支援します。

小田原市では、重層事業を活用して、パズルのように様々な支援ピースをつなぎ合わせながら、包括的な支援体制を構築していきたいと考えています。

